idea

ニュースレター「イデア」

2021. 9

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　一関市農業委員会　会長　伊藤公夫さん(前編)
3｜団体紹介｜　赤荻歴史遺産保存の会
5｜地域紹介｜　山谷自治会（東山）
7｜企業紹介｜　和服工房　小春屋（千厩）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴⑭
9｜センターの自由研究｜　末裔調査ファイル№2「宮城山福松」

今月の表紙
東山町・松川市民センター敷地内の土俵。平成元年から令和元年まで、大相撲東関部屋の力士たちが夏の合宿としてこの地を訪れ、汗を流していました(今年の春場所をもって東関部屋は閉鎖)。ところで、当地域出身の大相撲横綱がいたことをご存知でしょうか？(自由研究)

idea ニュースレター「イデア」
発行　いちのせき市民活動センター　〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736
ホームページ:https://www/center-i.org/　メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

募集　「花の駅せんまや軽トラ市」出店者募集中

「清田花の駅軽トラ市実行委員会」では、「花の駅せんまや軽トラ市」の出店者を募集しています。軽トラ市は毎月第3日曜日(一部例外あり)に行われ、出店者は随時申し込みを受け付けています。詳しくは下記まで。

今後の開催予定日時:
2021年9月19日・10月17日・
11月21日・12月19日
(9時～12時まで)
会場:「花の駅せんまや」駐車場(広場)
(千厩町清田字境)
販売物:野菜・果物・豆類・花木など
問合＆申込:090-3758-0469
(清田親交会事務局・千葉)
※小梨市民センターでも可(52-2496)

情報　中里市民センター（中里まちづくり協議会）ホームページ開設

旧一関管内・中里地域の地域協働体「中里まちづくり協議会」が2021年4月にホームページを開設しました。市民センターや地域協働体の事業紹介、行事予定、施設予約状況等を見ることができます。ぜひご活用ください。
※右のQRコードからもご覧いただけます。

URL:https://nakacen.jp/
※「中里市民センター公式HP」で検索しても上位に表示されます。
問合:0191-21-2152
(中里市民センター内)

情報　「語り部」派遣依頼承ります

「いわいの里ガイドの会」では、自然・風土や歴史・文化等を紹介する観光ガイド業務のほか、一関地方の民話を主題とした「語り部」も行っています。語り部は派遣依頼が可能。各種イベントや市民センター事業、サロン等でご利用ください。
※右のQRコードからもご覧いただけます。

URL:http://iwainosato.web.fc2.com/
※「いわいの里ガイドの会　FC2」で検索しても上位に表示されます。
派遣料金:2時間　3,000円
問合:0191-48-5888
(いわいの里ガイドの会)

講座　厚生労働省 地域ポートステーション若者事業「いちサポ 保護者のつどい」

わが子の自立や就職に悩んでいる保護者を対象に、全4回の講座を開催しています。前半は講師の先生による講話、後半は講師の先生を囲んで、悩みや不安を共有し合います。第2回目のテーマは「わが子の特性に合わせた職業選択への関わり方」です。

日時:2021年11月6日(土)
13時30分～16時
場所:なのはなプラザ4階会議室
講師:高橋岳志さん
((一社)かんな社会事業事務所)
対象:わが子の自立や就職に悩む保護者
定員:6～8名(先着順/参加無料)
問合＆申込:0191-48-4467
(いちのせき若者サポートステーション)

講座　自治会長サミット Vol.12

自治会や民区、集落公民館など、地縁活動を担う組織の3役レベルのみなさんに向けた情報交換の場「自治会長サミット」。今年度は、これまでの自治会長サミット内で多くあがっていた悩みの声などをもとに、下記テーマで情報交換を行います。完全申込制(10月22日締切)、先着21名の定員です。

情報交換テーマ:
「今後の自治会費について考える
～次の総会に、今ならまだ間に合う！～」
開催日時:2021年10月29日(金)
18時30分～20時30分
会場:川崎市民センター　研修室
問合＆申込:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

募集　イチコレ 第2回コンテスト モデル・スタッフ募集中

「いちのせき市民モデルコレクション(通称:イチコレ)」に参加するモデルと、一緒にイチコレを創っていくスタッフを募集します。詳しくはホームページをご覧いただくか、下記までお問合せください。
※右のQRコードからもご覧いただけます。

URL:https://www.center-i.org/
※「いちのせき市民活動センター　イチコレ」で検索しても上位に表示されます。
開催日:2021年11月23日(火・祝)
モデル申込締切:9月15日(水)
問合＆申込:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「今となっては珍しい!？白ポスト」

JR矢越駅で見つけた白いポスト。青少年にとって有害な図書類を処分するためのポストで、昭和40年代に全国的に広まったのだとか。当市では矢越駅の他にもいくつかの駅に設置されており、室根地域においては「室根地域防犯協会」が管理運営を行っています。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2021年８月１日付
(2021年７月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	112240	-132
世帯数	46334	-11
出生数	28	-8

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55444	-39	24405	-2
花泉	12445	-12	4716	2
川崎	3413	-5	1286	-1
千厩	10224	-6	4110	0
大東	12505	-30	4939	-10
東山	6202	-12	2303	1
室根	4591	-8	1773	0
藤沢	7416	-10	2802	-1

156 / 112,240

伊藤　公夫

平成24年９月から令和３年９月19日まで、一関市農業委員会会長を３期９年務める。高校卒業後、１年間の専業農家を経て、公務員となるが、以降も兼業農家として農業（水稲）に従事。東山町松川三室出身・在住。昭和18年生まれ。

第87回　一関市農業委員会　会長※　伊藤公夫さん　×　いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺浩樹

※令和3年9月19日で任期満了

「譲る」も「続ける」も覚悟をもって
～農地は‘限られた資源’【前編】～

農業従事者の減少と高齢化により、遊休農地の増加が懸念される昨今。当市では令和３年４月現在、管内の農地面積１８２２６ｈａのうち、１２６ｈａが遊休農地という現状。こうした現状を解消するため、「農地等の利用の最適化」が求められており、その推進役を担うのが「農業委員会」です。限られた「資源」である農地を、誰が、どのように守ることが「最適」なのでしょうか（２回シリーズの前編）。

小野寺　まずは農業委員会の普段の業務内容を教えてください。

伊藤　そもそも農業委員会は昭和26年に施行された「農業委員会等に関する法律」に基づき、原則として市町村に一つ設置されています。一番の目的は「農地を守る」こと。農業における「土地」は何よりの「資源」です。限りある資源を「最適に活用」するため、農地の売買や貸借の許可、農地転用案件への意見具申などを行っています。

小野寺　昭和22年の農地改革とも関連しているのでしょうか。

伊藤　農地改革では、それまでの地主制度を解体、小作農家を解放し、自作農家[※1]を創出しました。そこで生まれた自作農家の権利を守り、食料自給率向上も図るため、昭和27年施行の「農地法」によって、農地に様々な規制がかけられているのです。

小野寺　ここで言う「農地」というのはどのような土地を指しますか？

伊藤　地目が「田」や「畑」になっている土地（＝耕作の目的に供される土地）と、採草放牧地が農地法の対象で、休耕地であっても、耕作目的に供されると判断されれば対象です。

小野寺　それらの土地を売買したり、転用する時には農業委員会の許可が必要になるのですね。

伊藤　下限面積が定められているため、全てが対象ではありません。実は令和２年３月までは50ａ（５反歩）以上の農地が対象でしたが、現在は10ａ（１反歩）へと引き下げられました。つまり、今までは５反歩以上じゃないと売買できなかったのが、家庭菜園レベルの１反歩でも売買できるようになったんです。

小野寺　５反歩以上じゃないと売買できないというのはどのような理由からでしょうか？

※１　小作料を払って他人の土地を借り、そこを耕作する「小作農家」に対し、自分の土地を耕作する農家。

伊藤　この要件は取得者側に立った要件です。農地の最適化を考えた時に、１反歩２反歩の農地では生産性が低い、つまり農業で飯が食えない、ということなんです。ナタもカマも持たない農業者がそっちこっちに出てしまえば、いずれ耕作放棄地につながる可能性があるわけです。トラクターまでは持てなくても、最低でも管理機[※2]くらいは持ってほしい。その目安が５反歩だったんです。

小野寺　なるほど。５反歩以上耕作する予定がある人にしか農地は持たせないよ、ということですね。それを１反歩以上に引き下げた背景というのは？

伊藤　１反歩２反歩程度の農地が欲しいという需要が増えているんです。例えば定年後にＵターンした次三男が、いざ家を取得したら庭先から向こうは他人の敷地だった。最低でも家庭菜園はやりたいのに……と。そういう要望を受け、１反歩以上の農地で農作業を行う意志があれば、農地を取得できることにしたんです。この下限面積は各農業委員会に裁量権があります。

小野寺　移住者やＵターン世代の需要に応えたわけですね。

伊藤　最近は農家住宅を求めて来る人も多いです。家は広いし、いかようにも改造できる。本宅に加えて、納屋や蔵までついてきたりして。逆に農家住宅に住んでいた老夫婦が「東京にいる息子のところに身を寄せるから」と、欲しい人がいればいくらでも良いから処分したいと希望するケースも増えてきています。そのため、市の空き家バンクとも連携し、空き家バンクに登録された家に付属した農地に関しては、１ａ（１畝）以上耕作するのであれば取得できるという要件にもしてあります。

小野寺　農業委員会は目に見えない、新たな時代の流れにも対応しているんですね。

伊藤　当市の農業委員は24名おりますが、農政専門委員会と農地専門委員会の二つに分かれています。農政専門委員会は、法令に基づく議案を審議したり、市長への提言をしますし、農地専門委員会[※3]は「農地利用最適化推進委員」と連携しながら、譲渡案件があれば、適正な農地運営がなされているかどうか、定例会をもって検討します。

小野寺　例えば近年、農地への太陽光パネル（発電設備）の設置が増えてきていますが、農業委員会としてはどのような対応をしているのでしょうか。設置後、草刈りもされずに荒れている場所も見かけるので……。

伊藤　他市町村では２反歩以上は許可しないなど、要件をつけているところもあるようですが、当市の場合、規模の要件はつけていません。業者主導での設置運用なので、騙されないか、そんなに設置して大丈夫かという不安はありますが、「農地転用許可制度」のもと、農業上の利用に支障が少ない農地に誘導する程度で、申請があった分はやむを得ないという状況です。ただし、10～20年後には必ず撤去することになるので、契約時に撤去費用だけは先にもらうことを指導しています。

小野寺　そうなんですね。ちなみに今年、休耕地が例年以上に目につくのですが、米価の下落に伴う生産調整のようなものがかかっているのでしょうか？

伊藤　直接的な生産調整はないですが、これ以上米価が下がらないように、国から県へ、県から各市町村への圧力は感じます。国は「行政による生産数量目標の配分に頼らず、生産者や集荷業者・団体が中心となって需要に応じた生産を」という呼びかけに留めていますが、水田を活用して麦や大豆、飼料用米等の戦略作物を生産すると助成金が交付されるなど、事実上は水稲栽培を減らせということ。米価が下がっても補填はしないという意味です。

小野寺　それもあって、農協を介さずに産直やインターネットで個人売買をする人が増えているんでしょうね。

伊藤　一番米価が良かった時は30kgで１万２千円くらいしたんです。今はその半分。川崎のメダカ米ですら７５００円。せめて１万円はないと、生産者は生きていけないですよね。

【次号へつづく】

一関市農業委員会
住所　一関市竹山町7-2
電話　0191-21-8692

※２　田や畑の耕耘を目的とした農業機械の一つで、各種作業機との連結を前提としたものを指すことも（ここでは小型の耕うん機を指す）。
※３　担当区域における農地等の利用の最適化の推進を担当（現場活動）する。平成28年より設置された。

団体紹介

赤荻歴史遺産保存の会
平成26年８月２日発足。現在の会員は20名ほどで、赤荻地区内を中心に活動中。文化財問わず、文化的・自然的に価値あるものを「歴史遺産」とし、後世に語り継いでいくための事業を展開している。

〒021-0041　一関市赤荻字宿17-4
TEL：080-1837-6740（事務局：佐藤剛一）
写真：「赤荻護國会碑」前での記念写真
※会員以外の人も含む

地元の「誇り」を後世に残すために

赤荻歴史遺産保存の会

発足の契機となった「赤荻護國会碑」

市道中条外山線（工事中）付近の雑木林の中に静かに建つ「赤荻護國会碑」と書かれた巨大な石碑。日清戦争時、徴兵策を推進するために建てられたこの碑は、幕臣だった榎本武揚が題字を篆刻し、学者の大槻如電が碑文を作ったと言われています。

この碑の建つ一帯は「烏森」と呼ばれ、大正時代には笹谷・外山・宿の青年たちが集まって大運動会を開いていたことが『山目史』に記されています。

今でこそ、赤荻地区（赤荻村）の歴史を垣間見ることができる場所となった当該エリアですが、実は約7年前まで人目を浴びない、荒れ果てた状態でした。埋もれかけた歴史遺産を掘り起こすべく、地元住民で立ち上げたのが今回取材した「赤荻歴史遺産保存の会」です。事務局の佐藤剛一さんに当該歴史遺産をご案内いただきながら、会の活動について伺いました。

歴史が繋いだ軌跡

平成20年頃、運動不足解消のため、自宅近くの山道を歩いていた剛一さんは、密生する笹の中に、まばらにしか生えていない場所を見つけます。明らかに周りとは生え方が違うことに違和感を覚えた剛一さん。藪の中を突き進むと、自分の背丈の倍はある「赤荻護國会碑」を発見！突然現れた碑に驚き、どうしてこんな山の上に碑があるのかと様々な疑問を抱きながらも、この時はそのまま帰路につきました。

それから3年後、退職をきっかけに再び碑の元へ。すると、東日本大震災の影響か、碑が仰向けに倒壊していたのです。碑に何が彫り刻まれているか、解読はできなかったものの、その姿を見た剛一さんは「赤荻にとって大事な歴史を語りかけているのでは」と感じたのだとか。

その後、碑に関する文献や地元住民への聞き取りなどで碑が建立された背景を知り、「この碑をこのまま倒しておくわけにはいかない」という思いが強くなります。また、調査過程で赤荻地区の至るところに石碑等が放置されている現状を知った剛一さんは、同じ思いを持つ地元住民と調査保存の活動を開始。平成26年度の「いちのせき元気な地域づくり事業」で赤荻の歴史遺産に関する調査・保存が取り上げられたことも後押しとなり、地元有志11人で同会を発足させました。

「地元の歴史を伝える」自分たちの役目を繋いで

発足後、真っ先に着手したのが山道と碑周辺の環境整備でした。何十年と人が入らず、荒れ放題となっていた所を整備し、平成26年9月、地元住民を中心に現地見学会を開催。参加者からは「長年住む場所にこんな碑があるとは思いもよらなかった」という驚きの声が多数あがったと言います。

平成27年6月、かねてから計画していた碑を建て直すプロジェクトが本格始動。地元企業に復建の依頼をし、同年7月12日、お披露目会を兼ねた再建式を行いました。この日は、建碑された明治28年7月12日から数えて、ちょうど120年の節目にあたり、同会にとっても感慨深い日となりました。

同会は定期的な勉強会や山目市民センター事業への協力のほか、「歴史遺産」周辺の環境整備や見学事業の開催、地区内に伝わる風習等の調査も行っています。また、一関学習交流館に地区内の「歴史遺産」を紹介する案内板や当該遺産の周辺に標柱を設置するなど、誰もが気軽に赤荻の歴史を知ることができるような取り組みも。

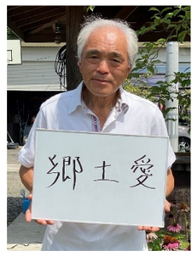
案内板には、平安時代に開削されたと伝えられる用水路「照井堰」で稼働していた水車の名前と跡地18か所を一覧にしたほか、石碑や寺社、樹木などを赤荻地区の上空写真と一緒に紹介。剛一さんは、「文献には石碑などの場所を示す内容が記されているが、いざその場所に行こうと思っても難しい。いかに親しみやすく分かりやすく伝えるかが大事」と語ります。

同会が発足して7年。「赤荻地区に眠っている『歴史遺産』をなんとかしなければいけない」と勢い良く活動してきましたが、コロナ禍で事業がストップ。会員のほとんどが高齢ということもあり、一度勢いが止まってしまったことに不安を感じながらも、少しずつ事業を再開させ始めました。

赤荻の「歴史遺産」を後世に伝え・残し続けるため、今後は人材育成にも力を注ぎ、時代に合ったやり方で地元の魅力を発信していきたいと意気込む同会。「地元の歴史を伝えるのが自分たちの役目」と、誇りを持って次世代へ語り継いでいきます。

Q.あなたにとって赤荻の歴史とは？

会長



A. 郷土愛

高橋正義（たかはし　まさよし）さん
生まれも育ちも赤荻ということもあり、会の中でも一番を競うほどの郷土愛！今後も会の先頭に立ち、会を牽引していきます。

副会長

A. 温故知新

阿部克郎（あべ　かつろう）さん
郷土の歴史を調べるのが好きだと言う阿部さんは、赤荻に眠る「歴史遺産」の魅力に心奪われ、会の発足にも尽力しました。

- Photo gallery -

地元の歴史を紹介
全31か所の「歴史遺産」を解説文付きで紹介する案内板は、山目市民センター赤荻分館の体育館横に設置されています。

地元住民を対象に
今年度初めての主催事業を7月18日に開催。正慶山観音寺から経壇山までの山道には歴史を感じるスポットがいっぱい！

巨大石碑の謎
同会発足のきっかけとなった赤荻護國会碑。高さ4m50cm、横1m80cmの石碑を誰がどのように設置したかは謎のまま…。

自分と次世代のために
剛一さんがまとめた調査の記録本。知識がない方にも分かりやすい内容です。読んでみたい方はご連絡ください。

地域紹介

各種団体が横並びで、老いも若きも楽しく

東山　山谷自治会

山谷自治会（長坂）
東山町長坂のほぼ中央、唐梅館総合公園の西に位置する自治会。81世帯約260人が暮らし、うち38世帯は市営住宅。自治会は会長、副会長、事務局、班長（５班体制）、監事、会員で構成。行政区は長平自治会と２自治会で長坂第３区。

左の写真：集落内にある特別養護老人ホームの夏祭りに参加したときの様子（平成30年）

合併を機に「自治会」として新たなスタート

自然豊かな山あいに清流が流れる北山谷と、特別養護老人ホーム、市営住宅などの公共施設が立地する南山谷という二つの顔を持つ山谷自治会。無形文化遺産「東山和紙」の職人が東山町内では家業として最後まで残った集落でもあります。

60年ほど前、国策会社・東北開発㈱（現・三菱マテリアル）のセメント工場誘致合戦に旧東山町も参戦。昭和33年に誘致すると、山谷地区にも20戸ほどの社宅が建てられました。10年後には町営住宅（当時）が建設され、今も38世帯の市営住宅が並びます。

東山町において、各集落に「自治会」という名称の組織が作られたのは、平成17年の新一関市誕生後であり、山谷自治会も同時期に発足しました。

部会は設けず、納税組合、農家組合、子ども会、老人クラブ、婦人会など、各種団体が対等な立場で持ち味を活かしながら地域を支える体制をとる同自治会。定期総会や新年交賀会等の主要事業には、基本的に全戸が出席するなど、地域活動への関心の高さがうかがえます。

子どもも大人も競って、食べて、学ぶ

「東山町民運動会」のほか、「東山地区行政区対抗ソフトボール大会（東山地区体育協会主催）」「朝ソフトボール大会（東山町ソフトボール協会）」があるなど、運動を通じた交流の機会が多い東山町。同自治会ではそれらへの参加（有志参加含む）に加えて、年に1回、唐梅館総合公園で「パークゴルフ大会」を開催するなど、スポーツ事業に力を入れています。

行政区対抗の事業では、同じ長坂第３区の長平自治会と連携をとりながら参戦するため、会を越えた交流の機会としても機能。地区別に開催される東山町民運動会では、平成29年～令和元年まで、長坂第３区が３連覇を達成しています。

「食」に関する事業も充実。農家組合と連携し、11月に開催する「自治会・農家組合合同農産物展示会」では、丹精込めて作った農産物を披露するとともに即売会を開催。その後の反省会（飲み会）も楽しみの一つなのだとか。

自治会員で組織する「そばの会」では、住民の交流促進と休耕田の利活用を目的に平成22年から約40ａの畑でソバの栽培を行っており、「新そばを味わう懇談会」を毎年２回開催。手間暇かけて収穫・製麺した手打そばは味の評判も良く、毎回会場（自治会館）が満員になるほど大盛況なのだとか。

さらに、冬には自治会館の隣にある工房で「とうふの会（自治会有志）」が手作りの豆腐を作るなど、集落内の各種組織が「食」を通じた交流の機会を創出し、生きがいづくりにもつながっています。

時代の変遷とともに

自治会発足以前から、集落内にある東山中学校のグラウンドを会場に「盆踊り大会」を開催していた同自治会。約20年前、集落内に特別養護老人ホームが落成すると、入所者と地域住民との交流の機会を創出すべく、同施設の夏祭りで行われる盆踊りに自治会として参加するという形式に（長平自治会も参加）。集落の歴史が発展的に継続されています。

副会長の鈴木幸太郎さんは、副会長に就任してからの8年間を「一番にしかったことは地区のみんなと地区運動会に参戦したことですね。３連覇なんてそう簡単にできないことですから。あと、老人ホームのお年寄り方々と交流できるのもこの地区ならはだと思います。研修旅行で奥州市沢の胆沢ダムや温泉に行ったこともかったですね」と、楽しそうに振り返ります。

集落内の市営住宅には若い世帯がいため、子どもも多い同自治会。山子ども会では、子どもたちの自然学の機会として、夏には「蛍の鑑賞会冬には「鮭の稚魚の放流」を行うな集落内を流れる山谷川を有効活用しています。上記事業のほか、資源回収も子ども会と自治会が連携し、関係構築につなげています。

一方で、市営住宅に居住している方は山谷地区に来てから日が浅く自治会活動への参加を躊躇することそれでも鈴木さんは、「若い方で班の役に就き、進んで自治会活動に参加長も。、若性でて、」、習谷多してくれる方もいますし、農産物の品評会では若い世帯の方も協力してくれます」と、現状の若い世代の関わり方を認めながら、今後の若きリーダーの育成に力を入れる意気込みを見せます。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会副会長

A.実行力

すずき　こうたろう
鈴木幸太郎さん
４期８年目。自治会長をサポートしながら、交通安全協会長坂分会の理事も務める鈴木さん。地元企業に勤務しながら地域活動に関わり続けています。

監査

A.和

さとう　きゅうこう
佐藤久耕さん
３期６年目。旧東山町時代には助役を務めるなど、長年地域の発展に貢献。旧東山町時代の歴史にも詳しい地元愛あふれる一人。

- Photo gallery -

中学校前バス亭花壇
自治会の花壇は「母ちゃんの花畑会（自治会有志25人）」が管理。市の花いっぱいコンクールでは入賞の常連です。

昔ながらの豆腐作り
かつては各家庭で行われていた豆腐作りを継承すべく、「とうふの会」が２月に豆腐作り。各家庭に無償配布しています。

人も車も気持ちよく
前沢町と東山町内を結ぶ県道もある同地区。５つの班ごとに年３回道路周辺の清掃を実施し、環境維持に努めています。

おらほの神社も綺麗に
山谷老人クラブでは月１回、地区内２か所の神社（熊野神社・白幡神社）と自治会館周辺を清掃し、陰ながら地域を支えます。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴⑭

ワークショップの落とし穴②　～そのワークショップ、住民の負担を増やすだけ!?～

当センターは地域づくりやまちづくりに関連する様々な「ワークショップ（前号参照）」をさせていただいていますが、いつも気になるのが**ワークショップの「目的」**です。

ワークショップは、**‘何を目的に、何を話し合い、その話し合いの結果をどのように取り扱っていくのか’という「プロセス」を、事前に丁寧に創りこむことが重要**なのですが、ワークショップを開催したいという相談をいただき、お話を伺うと、その多くが**「‘課題’をワークショップ形式で話し合わせたい」**というオーダーです。

市民（住民）をせっかく集めるのだから、いまの現状や課題について聞きたいという気持ちは分かるのですが、ワークショップ開催の度に「課題を聞かせてください」と言われる市民は、**「何度も同じことを話し合わせられるが、過去のワークショップで出した課題については、何か取り組まれたのか？」**となってしまいます。

日頃現場に立つ我々は、「10年も前から課題を出し合っているが、**10年前からの課題がそのままになっていることこそが課題**である」というご意見をいただくこともしばしば。

テーマによっては課題から話し合うことも必要ですが、ワークショップが様々な場面で行われるようになった昨今、似たようなワークショップが開催されていることも多々。よって、**ワークショップを開催する前に、似たようなテーマのワークショップが開催されていないか事前に把握する必要**がありますし、あったとしたら**議論の内容や成果を見せてもらい、その中から抽出できるモノがあれば、わざわざ似たようなワークショップを開催する必要はありません。「成果の共有」は、参加者（＝住民）の負担を軽減する**ことにつながるのです。

また、ワークショップの参加者選びにも工夫が必要です。「〇〇に関するワークショップを開催するので、地域から〇名推薦お願いします」という依頼文が出されますが、地域側（≒地域協働体、自治会、各種組織）は依頼側が想定するよりも住民との関係性が多様ではないという現実が。案内をいただいた人（自治会長や区長、地域協働体の長、事務局など）の知っている範囲でしか声をかけられないため、**‘声がかかる人はいつも同じ’**という状態に。これでは、せっかくのワークショップも‘多様な視点での話し合い’とはならず、それこそ10年前の課題が今も同じように述べられている状態になってしまいます。「みんなで結論を創り出す」ために有効なワークショップですが、**人口減少によってプレーヤーが減少する中にあっては、単なる「住民の負担の増加」に終わってしまう**のです。

市民の参加・参画を謳う行政は、**いかに‘これまで関わったことのない市民と出会う工夫’ができるか**が問われますし、仲介役となる地域母体では、**常日頃から住民の把握に努め、日ごろの関係性を築き、多様に声がかけられる状態を築いておかないと、せっかくのワークショップもマンネリ化**してしまいます。

「一関市後期総合計画基本計画」策定に係るワークショップ（令和元年度に実施）の設計を依頼された際には、上記のような状況を避けるために、**「無作為抽出」**で参加者をピックアップし、案内をかけてもらいました。現場に立つ我々でも**出会ったことがない参加者ばかりで、意見が斬新だった**ことを記憶しています。

人（参加者）が変われば話題に上る話も変わりますが、ワークショップ未経験の方（≒地域づくり・まちづくりに関する会議に参加する機会の少ない人）の意見ほど興味深いものです。そして、無作為抽出によって選ばれてきた参加者にとっては、新たな関係性の構築にもつながり、少なからず**「まち」や「地域」に関心をもってもらう機会**になります。

良かれと思って開催するワークショップが落とし穴にはまらないように、書き留めておきます。

令和元年度に開催された「一関市後期総合計画基本計画」策定に係るワークショップ。「無作為抽出(20歳以上～80歳未満)及び推薦」で集められた市民が、２会場各2回で一関市が５年後にあるべき姿を検討。「よく分からないけど案内が届いたから来た。地域活動には関わったこともない」という参加者も多く、まさに多様な視点でのワークショップに！ 推薦で参加した‘常連さん’にとっても良い刺激となりました。

企業紹介

千厩　和服工房　小春屋

自宅兼工房にて、一般着物の仕立てや仕立直しのほか、着物のリメイク（洋服や小物等）や販売など、手作業による一点物の和服縫製業を営む。東京で和裁の技術を学んだ小山富二子さんが工房を立ち上げ、現在は長女の春日（はるか）さんも職人として工房を切り盛りする。また、地元の職業訓練校が開催する和裁教室（毎週金曜日）の講師も務め、「着物」という日本の伝統と文化の継承に貢献しています。着物を着る機会が激減している中、少しでも着物に興味関心を持ってもらえるよう、リメイク着物などの情報発信にも注力。同工房のリメイク着物作品は、同店舗ほか、「道の駅むろね」でも購入可能。

多くの人に着物の良さ、楽しさを知ってほしい

ご要望にお応えできる工房として

「一人でも多くの方々に、着物に興味を持ってもらいたい。着物を着用し、日本衣装の素晴らしさをもっともっと身近に感じてほしい。着物を普段着として楽しんでもらえたら」と語るのは、和服工房　小春屋代表の小山富二子さん。学生時代から手先が器用で、モノづくりが得意だった富二子さんは、その得意分野を活かした手仕事を自らの生業にしようと、東京で住み込みをしながら和裁技術を習得。国家資格である和裁技能士1級や和裁教員免許を取得した後、実家（室根町）に帰郷します。

当初は実家を和服縫製作業の拠点としていましたが、昭和61年に現住所で工房を構えると、同じく和裁を得意とする知人や、和裁を学びたいという人（生徒）数名で、気仙沼市の呉服店や仙台市内の着付け学校などから依頼を請け負うように。一般着物・振袖・留袖・和装コート・男物・帯・作務衣等の寸法直し、仕立て直しや、染め・シミ抜き・洗い張りなど、すべての依頼を手縫い・手作業で仕上げていきます。

日本の「民族衣装」とも言える「着物」ですが、「普段着」ではなく、「品位のある特別な衣装」というイメージが強くなっている現代。「普段着が洋服になり、着物が日常的にも着用できる衣服だという意識は薄れてしまった」と、残念がる富二子さん。少しでも日常使いしやすいようにと、現在力を入れているのが着物のリメイクです。

お客様の思い出の詰まった着物や羽織物が、普段着として使える洋服などに大変身！その素材や柄などを活かし、ご要望に合わせてリメイクしており、着物が日常使いできるようになるだけでなく、和服縫製技術の継承にもつながっています。

「非日常の特別な衣装」を「非日常を楽しめる衣装」へ

長女の春日さんの名前にちなんで命名された「小春屋」。「工房で着物の仕立てをしている母の姿を見ながら育った」と話す春日さんは、「私もいつか、着物に携わる仕事に就きたい」という想いから、高校卒業後、東京で和服縫製の修業をし、和裁技能士1級を取得。地元に戻り母の下で修行を続ける中で、和装縫製という日本の伝統技術や着物の素晴らしさを「残したい、守り続けなければ」という思いが増し、工房を継ぐ決意をします。

着物・羽織物の反物からの仕立ては工程全てを手縫いで行っており、2～3日かけて完成させます。また、今ある着物や羽織物をほどいて、新しい着物や羽織物に生まれ変わらせる「仕立て直し」にも対応。「和服は洋服と異なり、生地を裁断せずに縫い込んでいるため、ほどいて並べると反物の形になります。そのため、サイズに変化があっても、お仕立て直しをすることで新たな命が吹き込まれるのです」と春日さん。

SNSを使い、着物の魅力や和装士の技術、リメイク品情報などを積極的に発信する母娘は、「たくさんの人に興味を持っていただければ嬉しいです」と笑顔を見せます。

1　代表の小山富二子さんと娘の春日さん
2　仕立てた着物と着物リメイク作品
3　あぐらをかいて足の親指と人差し指で布を挟み引っ張りながら仕立てる方法「男仕立て」

DATA
〒029-0801
一関市千厩町清田字下大持127-8
TEL＆FAX 0191-53-2932
HP https://www.koharu-ya.com/

ミッション59

末裔調査ファイルNo.2「宮城山福松（みやぎやま ふくまつ）」

当地域出身の偉人に関する‘ついつい気になる疑問’である「末裔」。偉人そのものの功績もさることながら、その末裔を調査し、会いに行く「末裔調査ファイル」の第２弾（第１弾は芦東山（2020年11月号））！今回は知る人ぞ知る当地域出身の大相撲力士・宮城山をピックアップします。第29代横綱であり、「天覧相撲」として昭和天皇の前で土俵入りもしたことのある、まさに郷土の偉人です。その人生と末裔を追いました！ ※文献や資料によって史実と年齢が合わないものがあり、今回は史実を優先に年齢を計算しています。

山目村の誇り・横綱「宮城山福松」

第29代横綱であり、**「大阪相撲」最後の横綱**でもある**宮城山福松**（本名・佐藤福松）は、明治28年、現在の一関市五代町（当時は山目村）に誕生。幼い頃から怪力自慢として知られ、父親と同じ人力車夫を経て、16歳で**「東京相撲」の出羽ノ海部屋**へ。

兄弟子との喧嘩から、19歳の時に**大阪相撲・高田川部屋**へと弟子入り。この時、後の内閣総理大臣・**原敬の紹介**があったという話も。

大阪相撲では入幕２年目に大関まで昇進するなど頭角を現したものの、「宮城山」という名前ゆえ、地方巡業で地元を訪れても、残念ながら盛り上がりには欠けたのだとか。

その悔しさで一層稽古に励んだ宮城山は、**入幕６年目で横綱**に昇進。直後に行われた地元で二度目の地方巡業では、駅前や沿道が出迎えの住民で埋まる大歓迎ぶり。当時の山目村村長が音頭を取り、宮城山後援会も組織されました。

しかし、横綱昇進と同時に癤疽を発症。休場が続く中、東京相撲と大阪相撲が合併（大阪相撲が解散）する運びに……。持病を抱えながら挑んだ番付統合のための興行で惨敗した宮城山は、小結程度と評されながらも、吉田司家から横綱免許を取得していたことで、張出横綱として横綱の地位をキープ。迎えた**合併後初の本場所で優勝を成し遂げた**のです……！

宮城山福松（佐藤福松）
幕内戦歴（合併後）
90勝70敗１痛分26休（17場所）
幕内戦歴（大阪）
102勝24敗６分５預63休（20場所）

「宮城山」プロフィール
※本文の年齢は数え年です

1895	現・一関市五代町で人力車夫をしていた佐藤丑蔵の五男として誕生。
1905	尋常高等小学校の尋常課のみで卒業し、近所の醤油店に勤めていたが、まもなく家業を手伝い、人力車夫となる。
1908	前年、岩手巡業に来た常陸山谷右エ門の一行を見て力士に憧れを抱いていたが、相撲界に入りたい気持ちが強くなり、人力車夫をやめ、親に黙って上京。理髪店に住み込みで働くが、相撲への気持ちで仕事には身が入らず、本場所ごとに足を運んでいた。
1910	出羽ノ海部屋（東京相撲）に弟子入りを懇願し、入門。猛稽古に励み、「岩手川」の四股名で初土俵をふむ。アメリカ巡業にも参加。
1913	三段目に昇進。岩手川がまだ許されていない大銀杏を結っていると、兄弟子に「生意気だ」と殴られ、出羽ノ海部屋を抜け出す。
	相撲を続けるため、大阪へ。大阪相撲の高田川部屋に入門（原敬の紹介）。四股名を「宮木山（後に宮城山）」に改名する。
1916	入幕（22歳）。東京相撲で鍛えていたこともあり、翌年１月に関脇に、１月場所後には大関に昇進。
1922	１月場所で10戦全勝を果たし、吉田司家からの横綱免許を取得（大阪相撲４人目）。しかし、昇進直前に癤疽を発症、その後休場が続いた。
1925	東京と大阪の相撲協会が合併準備開始。番付統合を行うため技量審査を兼ねた「東西両連名相撲」が開催されるが、宮城山をはじめとする大阪相撲力士は惨敗。宮城山も「小結程度」と評された。
1927	大日本相撲協会発足。大阪相撲だった力士の多くが大阪相撲より低い番付に組み込まれる中、宮城山は吉田司家から横綱免許が授与された正式な横綱ということもあり、合併後も「張出横綱（第29代横綱）」として編入。合併後初の本場所では10勝１敗で、幕内最高優勝を達成。
1929	巡業先（高知県）で現在の高知市出身の寿美栄さんにひとめぼれし、結婚。※前年には合併後２度目の優勝を達成している。
1930	天皇が大相撲を観覧する「天覧相撲」で、宮城山も土俵入り。両陛下からねぎらいのお言葉を受ける。
1931	３度目となる皆勤負け越しを記録してしまい、５月場所を最後に引退。地元一関市に巡業の際、釣山下で断髪式を行った。
1943	引退後、年寄となり勝負審判を務めながら親方として芝田山部屋も経営していたが、妻の郷土・高知市で巡業中、脳溢血で急死。

末裔ファイル2

大阪相撲最後の横綱
宮城山福松（佐藤福松）

宮城山の甥の長男の妻（生家家督）
佐藤喜美子さん

宮城山福松の末裔へ
インタビュー

宮城山は昭和４年、巡業先の高知県で、当時26歳だった寿美栄さんと出会い、結婚。２人**の養子**と**一人娘**をもうけます。血のつながった娘は、商社マンと結婚し、家を出て行きました。その後の詳細は親族でも把握しきれていないようです。
※養子の１人（現在90代）は兵庫県在住とのことですが、高齢につき詳細なヒアリング不可。

８人兄弟の五男として生まれた宮城山ですが、誰も生家を継ぐことができず、**嫁いで鈴木姓になっていた三女のマサの長男（正雄）が佐藤に改め、生家を継ぐ**ことに（子どもに恵まれなかったマサは、養女を迎えますが、その後に長男の正雄を授かっている）。

正雄（＝宮城山の甥）には２人の息子がおり、長男の正弘が宮城山の生家で暮らしていました。正弘（＝宮城山の甥の長男）は妻・喜美子との間に３人の娘を授かりますが、**令和元年10月、73歳で病により他界**。そのため、**宮城山と直接的な血縁はない、甥の長男の妻にあたる喜美子さんが、生家を守っています。**

なお、宮城山の妹・ハルヨは子宝に恵まれ、三男の鈴木勇さん（現・一関市五代町生まれ）が、宮城山に関する資料収集を行うなど、一人のファンとして親類・宮城山を誇りにしています（本調査にも多大なるご協力をいただきました）。

佐藤喜美子（さとうきみこ）：
昭和23年生まれ。東山町松川に生まれ、昭和47年に宮城山の甥の長男である正弘と結婚。正弘の他界後、生家を守っている。

◆宮城山はどんな人だったと聞いている？

― 芯が強く、努力家で、面倒見がよく、気遣いができる人だったと聞いています。想像ですが、引退後は親方業の気疲れで早死にしてしまったのかもしれません。
宮城山亡き後も、一関への巡業には弟子の宮錦（平成4年に逝去）の尽力があったようなので、弟子にも慕われていたことがわかります。

◆宮城山ゆかりの品や遺品等はある？

― 横綱時代の手形があり、大きいなぁと思いながら見ています。
あとは、夫人の寿美栄さんが一関巡業に来た際の新聞の切抜を資料として残しています。実は宮城山が実際に住んでいた生家は火事にあい、リフォームしています。
ただ、新聞記事や一関巡業の時の写真等は無事で、今も保管しています。

◆生家の今後について

― 宮城山のことを知る地元住民も少なくなってきていると思いますし、改めて伝えようにも、親類等から聞いた話でしかないので、自分たちには難しいです。
ゆかりの品なども、今後誰が管理していくか決まっているわけではないので、もし管理できる人がいるのであれば、ありがたいです。
宮城山の生家があった場所に建つこの家の前には、地元・五代民区有志が建てた宮城山の記念碑や、一関市教育委員会が設置した宮城山の功績をまとめた看板もあるので、娘たちの誰かがこの家を継いでくれたら嬉しいですね。

大正11年、横綱に昇進直後の岩手県への地方巡業の際、お世話になった故・原敬に横綱昇進を報告するため、盛岡の原敬の眠る墓前にて土俵入りを奉納。その時の様子。

昭和22年、宮城山の33回忌を迎えるにあたり、甥の佐藤正雄さん含む一関市内の有志が「宮城山顕彰会」を設立し、法要等の準備を行った。また、33回忌に合わせて一関に地方巡業を勧進すべく「宮城山会」も発足。２者が協力し、一関大相撲場所が見事開催された。その後も連続６回一関大相撲場所が開催されている。

【写真右】昭和50年8月4日、一関市体育文化会館で行われた６場所目の大相撲一関場所の様子。

【写真左】６場所目に当日集まった宮城山の関係者。中央が宮城山の妻・寿美栄さん、右端が甥の正雄さん、その向かって左が現在生家を守る喜美子さん。

※画像・資料提供：鈴木勇氏

本誌に掲載しきれなかった画像等は、当センターホームページにて公開しています

▲円満寺にある「宮城山福松之碑」

引退後の宮城山は、年寄として勝負審判を務めながら、両国国技館近くに「芝田山部屋」を設け、岩手県出身の力士（宮錦（宮古）、高田山（千厩）等）を積極的に抱えました。1943年（昭和18年）、妻・寿美栄さんの故郷・高知市での巡業中に脳溢血で倒れ、49歳にして急死。一関市山目の「円満寺」にて眠っています。

ちなみに「宮城山」という四股名は、福松の故郷・旧山目村が伊達藩領だったことから、親方が命名（「岩手川」からの改名）したのだとか……。

＜参考文献＞
岩手日報社（1987）『岩手の先人100人』/ 岩手日報社（1970）『岩手のスポーツ人』
日本相撲協会「 相撲いろは＞歴代横綱＞宮城山 」https://www.sumo.or.jp/Yokozuna/profile/29/（参照2020-8-7）
＜取材協力＞
鈴木勇氏（宮城山親類・茨城県在住）/蜂谷緑氏（岩手相撲甚句会）